

健康三題

岡本かの子

青空文庫

はつ湯

男の方は、今いう必要も無いから別問題として、一体私は女に好かれる素質を持って居た。

それも妙な意味の好かれ方でなく、ただ何となく好感が持てるという極めてあつさりしたものらしかった。だから、離れ座敷の娘が私に親しみ度たい素振りを見せるに気が付いても一向珍らしいことには思わなかつた。仕事でも片付いたらゆつくり口が利ける緒いとぐち口でもつけてやろう。単純にそのくらいの察しを持合せていた。

女中の言うところに依ると、その娘は富裕な両親に連れられて
年中温泉めぐりをして居る所謂温泉場人種の一人だった。両親
が年老いてから生れた一人娘なので大事にし過ぎるせいもあり大
柄の身体の割合いに生気が無く、夢見るような大きな瞳に濃い睫
毛が重そうにかぶさっている。私は暮の二十五日に此の宿へ仕事
をしに来て湯に入る暇も無く強引にペンを走らせている。障子
の開け閉てにその娘が欄干に凭れて中庭越しにこっちの部屋を伏
目で眺めて居る姿が無意識の眼に映るけれども、私はそれどころ
でなく書きに書いて心積りした通り首尾よく大晦日の除夜の鐘
の鳴り止まぬうちに書き上げた。さて楽しみにした初湯にと手拭
を下げて浴室へ下りて行つた。

浴槽は汲み換えられて新しい湯の中は爪の先まで蒼み透った。
暁の微光が窓硝子ガラスを通してシャンデリヤの光とたがい違いの紋様
を湯の波に燦めきらかせる。ラジオが湯気に籠りながら、山の初日の
出見物の光景をアナウンスする。

湯の中の五六人の人影の後からその娘の瞳がこつちを見詰めて
いる。今はよしと私はほほ笑んでやる。するとその娘はなよなよ
と湯を掻き分けて来て、悪びれもせず言う。

「お姉さま、お無心よ」

「なあに」

「お姉さまの、お胸の肉附のいいところを、あたくしに平手でペ
ちやぺちやと叩たたかして下さらない？　どんなにいい気持ちでしょ

う」

私はこれを奇矯な所望とも突然とも思わなかった。消えそうな少女は私の旺盛な生命の気に触れたがっているのだ。私は憐み深く胸を出してやる。

春の浜別荘

暮から年頭へかけて、熱海の温泉に滞在中、やや馴染になった同じ滞在客の中年の夫婦から……もしここを引揚げるようだったら、五日でも十日でも自分のところの別荘へ寄つてそこにいる娘と一緒に暮しては呉れまいかと、たつての頼みを私は受けた。

私は自分では何とも思わないのに、異つたところのある女と見え、よくこんな不思議な頼みを人から受ける。念のため理由を夫婦に訊いてみると、「あたたのような気性を、是非娘に写して置き度いから」というのである。私はむつとして、「模範女学生じやあるまいし」と、つい口に出していつてしまったが、夫婦の強請^がみ方はなかなかそのくらいでは退けようもなく、また私自身書きものの都合からいつても何処^{どこ}かところを換え、気を換える必要があつたので、遂^{とうとう}々温泉滞在を切り上げ、夫婦に連れられて汽車に乗り、娘のいる浜の別荘へ送り込まれた。

来て見て案外その別荘は気に入った。家は何の奇もない甘藷^{かんしょ}

畑と松林との間に建てられたものだが、縁側に立って爪立ち覗きをしてみると、浜の砂山の濤なみのような脊とすれすれに沖の烏帽子えぼし岩が見えた。部屋の反対側の窓を開けると相模川の河口の南湖の松林を越して、大山連山の障壁の空に、あつと息を詰めるほど白く見事に富士の整った姿がかかっていた。そして上げ汐に河口の幅の広い湾入が湖のようになると、目を疑うほどはつきり空の富士が逆に映る。私は「まるで盆景の中に住んでいるようねえ」と美景を讚嘆した。

娘というのは数え歳は十六だそうだが、見たところやつと十二か十三で、脾弱ひよわな胴に結んだ帯がともすればずり落ちるほど腰の

肉などなかつた。蠟細工のような細面を臆病そうにうつ向け下唇を噛みながら相手を見た。ただ瞳だけが吸い付くように何物をか喘ぎ^{あえ}求めていた。そうかといつて病気もなかつた。

私と娘の両親との約束は——一緒に娘と膳を並べて食事をするほか、もし暇があつたら戸外の散歩へでも連れて出て呉れないか——、ただそれだけであつた。だから私は所換えに依つて新らしくそそられた感興の湧くに任せてぐんぐん仕事に熱中し出して娘を顧みる余裕を失つたが、娘は起きるから寝るまで私の部屋に来て、黙つてくの字に坐つたなり、私の姿をまじまじ見ているのだつた。私は見られていると意識するときに、ちよつとてれた気持ちもしないではないが、然しまるで草木のような感じしかない少女

が一人、傍にいたとて別に気分さわの障りにはならなかった。

私はその頃、ダルクローズの舞踊体操に凝こっていた。で、仕事に疲れて来ると忽たちまち室内着を脱ぎ捨てスポーツシャツ一枚の姿で縁側でトレーニングをやった。私の肉体は相当鍛えられていたから四肢の活躍につれ、私の股や腕にギリシヤの彫刻に見るような筋肉の房が現われた。私自身自分の女の肉体に青年のような筋肉の隆起が現われることに神秘的な興味を持ったのだが、気がつくみいと、これに瞠みいっている少女の瞳は燃ゆるようだった。彼女は見つけて三昧さんまいに入り、ぶるぶると身ぶるいさえすることがあった。私はこれを思春期の変態の現われじやないかと嫌な気がしたが、

そうではないらしかった。健康なものを見て、眼から生氣を吸い込もうとする衰亡の人間の必死の本能だった。私が運動を終ると、あえぐものが水を飲んだときのように彼女は咽喉を一つ鳴らし「もうもう本当にいい気持ちでしたわ」と襟えりもと元を叩いた。

二週間ほどの滞在中一度だけ私は娘を散歩に連れて出てやった。日の当る砂丘の蔭に浜防風が鬱うこんいろ金色の芽を出していた。娘は細い指先でそれを摘まみ集めながら私にいった。「ねえ、お姉さま。わたくしいつお姉さまのように活いきいき々きした女になって、恋が出来るのでしょうか」私は答えた。「ばか、恋はうかうかしてしまつてから気が付くもんだよ。前にかれこれ考えるものじゃないよ」

娘は、はーと吐息をついた。私は焦立いらだつていった。「自分の事ばかり気苦勞してないで、向うをご覧。海があるだろう。富士があるだろう。春じゃないか」旧正月を祝うとて浜に引揚げられた漁船には何れもへんぽんとして旗が翻っていた。砂丘の漁夫の車座から大島節も聞えた。私たちは別荘へ帰ってその夜の晩飯には、娘の摘んだ浜防風と生のしらすと酢のものにしたのを食べた。思いなしか、娘は日ごろより少し多く飯茶碗の数を重ねた。

それから三年ほど経って、その娘は結婚した。今は憎らしいほど丸々肥って子供の二、三人も出来た。毎年正月のためとて浜防風と生のしらすは欠かさず送って来る。

ゆき子へ

ゆき子。山からの手紙ありがとう。

ハネムーン
蜜月

月の旅のやさしい夫

にいたわられながら霧の高原地で暮すなんて大甘の通俗小説そのままじゃないか。たいがい満足していい筈だよ。今更、私をなつかしがるなんて手はないよ。第一誤解されてもつまらないし、人によつては同性愛なんてけちをつけまいものでもなし——結婚したら年始状以外に私へ文通するでは無いと、結婚前にあれほどくどく言つたじゃないか。それにもうよこすなんてこの手紙の初めについお礼を一筆書いては仕舞つたようなもののおこるよ。

改めて言うまでもなく、あなたを嘗て私の傍に、すこしの間置いといてやったのは、あなたの親達から頼まれたからであるけれど、私があなたを一目見て、あんまりあなたが貧弱なのに義憤を感じたからさ。なぜと言って、あなたの身体は紙縊こよりのようによじれていたし、ものを言うにも一口毎に息を切らしながら「おねえさま、あたくしこれで恋が出来ましようか」と心配そうにいつてたじゃないか。私は齒痒はがゆくて堪たまらなくなつて私の健康さを見せびらかし、私の強いのちの力をいろいろの言葉にしてあなたの耳から吹き込んでやった。そのせいかな、あなたはだんだん元気になり、恋愛から結婚へ——とうとう一人前の女になつた。

あなたは一人前の女になつた。私は同じ女性として助力の義務

を尽した。もうそれで好い、それ以上私はあなたに望まれ度くない。

あなたは私が都に一人ぼっち残つてさぞ寂しかろうと同情する。よしてお呉れ、私は人から同情を寄せられるのは嫌いだ。寂しいことの好きなのは私の性分だ。けれども断つて置きますが、私の好きなのは豪華な寂しさだ。

私は好んで私を愛する環境から離れて居たがる。一人、私は自分の体を抱く、張り切る力で仕事のことを考える。自分の価値につくづくうたれる。だがこれは病理学でいう「自己陶酔症」ナルチスムスなどという病的なものではないよ。自分の生命力を現実的にはつきり意識しながら好んで自分を孤独に置く——この孤独は豪華なぜいた

くなものなのだよ。もう判ったか、ゆき子。判ったらもう私をなつかしがる手紙など書くな、お前の良人おととに没頭するのだ。

青空文庫情報

底本：「岡本かの子全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1994（平成6）年2月24日第1刷発行

底本の親本：「丸の内草話」青年書房

1939（昭和14）年5月20日発行

初出：はつ湯「レッエンゾ」

1935（昭和10）年1月号

春の浜別荘「週刊朝日」

1935（昭和10）年3月31日

ゆき子へ「令女界」

1935（昭和10）年7月号

入力：門田裕志

校正：オサムラヒロ

2008年10月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

健康三題

岡本かの子

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>